

いま再び、「大左翼」の結集を呼びかける

五十嵐 仁（法政大学大原社会問題研究所教授）

「ブログ 五十嵐仁の転成仁語」―掲載2013年4月15日（月）

「左記の論攷は、「連帯・共同21」<http://rentai21.com/>というウェブサイトの【特集…いま、思うこと】に投稿したものです。」

総選挙の結果、「左翼」と言われる諸政党の議席も得票数も後退しました。これに対して、改憲を公言している自民党、日本維新の会、みんなの党の合計議席は衆院で改憲発議が可能なる分の2を超えました。今夏の参院選でも、これら3党が3分の2を越えれば、衆参両院で改憲

<http://rentai21.com/>

発議が可能になります。

ただし、改憲が発議されても、すぐに国民投票を実施するというわけにはいきません。それは、18歳選挙権などの制度的法的整備が完了していないからです。当面、安倍首相は、参院での多数回復とともに、憲法審査会での議論を進め、同時に、国民投票に向けての制度的な整備を行うことになるでしょう。

これを阻むためには、第一に、参院選で改憲勢力による3分の2の突破を阻止すること、第二に、国会論戦で憲法審査会での議論や制度整備の意図を打ち砕くこと、第三に、改憲阻止の大運動によって世論を変えていくことが必要です。改憲阻止に向けての取り組みは、選挙、国会、世論という三つの場で同時並行的に推進されなければなりません。

そのためには、結集できる限りの広範な勢力を糾合することが必要です。安倍首相の登場によって改憲の危機は高まり、当面、改憲手続きを定めた憲法96条を突破口にしようと狙っています。今日の政党間の力関係において、これを阻むことは極めて困難であり、一党一派によって成し遂げられるような生やさしい課題ではありません。

【論巧】いま再び、「大左翼」の結集を呼びかける

そこで、改憲阻止に向けての「大左翼」の形成を呼びかけたいと思います。表題に「再び」と書いたのは、今から20年前、1993年5月に法律文化社から刊行した拙著『概説・現代政治―その動態と理論』の「あとがき」で、次のように書いたことがあるからです。

「ただでさえ、日本における『左翼』は少数派であり、その発言力は弱体化しつつあるように見える。これは、政治的な対抗関係を弱め、政治の多元性を掘り崩す点で、現代政治にとって最も好ましいことではない。いま求められているのは、『反共』でも『反共分子』の排除でもなく、『大左翼』の結集によって『左翼的空間』を拡大し、保守政治に対抗し得る新しい政治勢力を作り出すことである。」

この新しい政治勢力は、保守政治に対抗できるだけの量、力を持たなければならないが、同時に保守政治を根本的に転換できるだけの新しい質、政策、展望を持たなければならない。そのためには、保守政治と手を組むことを潔しとしないすべての勢力が協力・共同する必要がある。」(372頁)

今日の国会状況からすれば、「保守政治に対抗できるだけの量、力」を持つことは困難かもしれません。しかし、改憲を阻止するだけの影響力を獲得することは可能でしょう。一度は、政権交代によって「保守政治に対抗」する可能性を生み出したのですから……。

残念ながら、政権交代の中心になった民主党は「保守政治を根本的に転換できるだけの新しい質、政策、展望」を持つことができませんでした。そのために、保守勢力の政権復帰と改憲の危機を生み出すことになりました。このような失敗を繰り返さないためには、「保守政治と手を組むことを潔しとしないすべての勢力が協力・共同」して「新しい政治勢力」を形成し、「保守政治を根本的に転換できるだけの新しい質、政策、展望」を示す必要があります。

そのための努力を、ぜひ始めて欲しいものです。20年前の呼びかけを、いま再び繰り返さなければならぬのは誠に残念ですが、このような情勢ではやむを得ません。憲法を変えてはならないと考えるすべての勢力・人々の大同団結によって「大左翼」を形成することを、いま再び、呼びかけたいと思います。